

岐阜市の自然情報

～岐阜市自然環境基礎調査～



平成 26 年 3 月
岐 阜 市

は じ め に



岐阜市は、山紫水明の国と言われた岐阜県の南部、美濃山地と濃尾平野の境に位置し、北部の山地から南部の平地まで様々な自然環境を有しております。

また、市域の中央を流れる長良川は、名水百選に選定されるほど豊富で清浄な水をたたえ、鶺鴒などの文化が発展し、金華山を含めた長良川中流域の景観は国重要文化的景観にも選定されております。

これら、岐阜市民の多くが親しみを感じている長良川中流域の景観・文化は、恵まれた自然環境なくしては存在せず、まさしく「生態系サービス」の恩恵により、長い時間をかけて作り上げられた「生物多様性」の上に成り立っております。生物多様性に関し、国では、平成 24 年に「生物多様性国家戦略 2012-2020」を策定し、自然共生社会を目指した取組みがされております。

本市では、平成 12 年 3 月に策定した「自然環境と保全—岐阜市自然環境実態調査報告」を踏まえ、平成 16 年に「岐阜市自然環境の保全に関する条例」を制定し、岐阜市貴重野生動植物種の指定を行うなど自然環境の保全に努めてまいりました。

そして、このたび前回調査から 10 年余りが経過し、現在の自然環境の実態を把握するために平成 21 年度から 5 ヶ年をかけて「岐阜市自然環境基礎調査」を行い、この報告書を作成いたしました。

今後は、この調査結果を市民・事業者の皆様に広く情報発信するとともに、本市の環境行政において活用しながら、人と自然が共生する豊かな環境都市を目指してまいりますので、皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本報告書の作成にあたり、ご尽力をいただきました岐阜市自然環境基礎調査部会の専門家・調査員の皆様に心から感謝申し上げます。

平成 26 年 3 月
岐阜市長 細江茂光



表紙の写真

ま え が き

岐阜市のほぼ中央にそびえる金華山。いうまでもなく、岐阜市のシンボルといって過言ではないであろう。戦国時代には織田信長公の全国統一の拠点となった地でもあり、歴史的にも重要な存在である。現在は、登山道やロープウェーなどが整備され、観光客も多く訪れる観光地の一つではあるが、長い間ほとんど人の手が入っていない環境が維持されてきており、山林の多くは自然林として保全されている。市街地に隣接する豊かな自然環境ということで、地元の人も多く訪れており、ほぼ毎日、日課のように登られている方も多く、岐阜市民にとっても身近な存在であることがわかる。

山頂に登ると、眼下にはツブラジイ(コジイ)の大きな樹冠に覆われた森林があり、その周辺には市街地が広がっている。豊かな自然と都市化した街並み、この対照的な関係が、ある意味岐阜市の特徴の一つともいえる。また、その周辺には水田を中心とした耕作地が広がり、その間には人家が点々とみられるいわゆる農村風景が広がっている。そして、山地が島状に並ぶこの平野部には、市を二分する形で清流長良川が蛇行しながら、ゆったりと流れている。

岐阜市を自然環境という観点から見てみよう。

前述したように、金華山には自然植生からなる森林環境がある。また、市の北部から東部にかけては平野部を扇状に囲む形で丘陵地となり、人々の生活とともに成立したアカマツ林やコナラ林といった代償植生からなる森林環境が広がる。そしてその周辺には民家、水田、畑、果樹園、小河川、水路などからなるいわゆる里地環境が広がっている。一方、市の中心部は市街地化された都市環境が見られる。そして、この都市環境と周辺の里地環境などをつなぐ形で長良川やその支川、水路といった水辺環境が網の目状に広がっている。

このように、歴史―都市―自然が融合する岐阜市は、多様な環境が見られ、それらを生活の場として様々な生物が生息・生育しています。

岐阜市の自然環境については、2000年に「自然環境と保全」という形で整理されていますが、その後、気象の変化、様々な開発などによる自然環境の変化、さらに2010年に開催された「生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)」によって、生物多様性に対する関心がより高まってきました。また、国のレッドリストや県のレッドリストについても改定が行われています。

このため市では、今後の自然環境保全施策のための基礎資料として活用できるデータベースづくりのため、2009年度から約5カ年をかけ、現地調査ならびに各種資料の整理を行ってきました。その結果、特に生物については、前回調査から新たに約2,000種もの生物の生育・生息情報を得ることができ、現状で、植物1,538種、哺乳類35種、鳥類231種、爬虫類17種、両生類16種、魚類61種、昆虫類3,358種、貝類102種、甲殻類(十脚類)8種の合計5,366種の生物情報を整理することができました。

今回の調査の実施を計画された岐阜市自然共生部の職員の皆様に心からお礼申し上げます。そして、多忙な中、また暑い夏や寒い冬、異常気象の中、調査に駆けずり回った調査員の皆様、さらに自ら情報収集に尽力された自然環境課の皆様に深く感謝する次第です。

今回の調査は、これで一区切りとなりますが、未調査のエリアや分類群も多くあります。

今後も各種調査データを蓄積していくことにより、より現実的な自然環境の保全施策が図れるよう、皆様のさらなるご理解とご協力を祈念します。

平成26年3月

岐阜市自然環境基礎調査

検討委員長 田中 俊弘

目 次

1. 岐阜市の自然概要	1
2. 地形・地質	3
2-1 地形概要	3
2-2 地質概要	4
2-3 地形・地質の特徴	6
2-4 平野	8
2-5 活断層	10
2-6 地形・地質と地名	12
3. 自然景観	13
3-1 自然景観の概要	13
3-2 自然景観の特徴	13
3-3 特筆すべき自然景観	18
4. 植物	21
4-1 植物相	21
4-1-1 植物相の特徴	21
4-1-2 岐阜市を代表する植物	21
4-1-3 重要な植物	49
4-1-4 外来生物法などに係る植物	60
4-2 植生	71
4-2-1 植生概要	71
4-2-2 現存植生図	79
5. 哺乳類	80
5-1 哺乳類相の特徴	80
5-2 岐阜市を代表する哺乳類	81
5-3 重要な哺乳類	81
5-4 外来生物法などに係る哺乳類	83
6. 鳥類	85
6-1 鳥類相の特徴	85
6-2 岐阜市を代表する鳥類	85
6-3 重要な鳥類	91
6-4 外来生物法などに係る鳥類	103
7. 爬虫類	105
7-1 爬虫類相の特徴	105
7-2 岐阜市を代表する爬虫類	106
7-3 重要な爬虫類	106
7-4 外来生物法などに係る爬虫類	108
8. 両生類	109
8-1 両生類相の特徴	109
8-2 岐阜市を代表する両生類	110
8-3 重要な両生類	110
8-4 外来生物法などに係る両生類	113

9. 魚類	115
9-1 魚類相の特徴	115
9-2 岐阜市を代表する魚類	115
9-3 重要な魚類	129
9-4 外来生物法などに係る魚類	131
10. 昆虫類	132
10-1 昆虫類相の特徴	132
10-2 岐阜市を代表する昆虫類	132
10-3 重要な昆虫類	188
10-4 外来生物法などに係る昆虫類	196
11. 貝類	197
11-1 貝類相の特徴	197
11-2 岐阜市を代表する貝類	197
11-3 重要な貝類	200
11-4 外来生物法などに係る貝類	209
12. 甲殻類(十脚類)	210
12-1 甲殻類(十脚類)相の特徴	210
12-2 岐阜市を代表的する甲殻類(十脚類)	210
12-3 重要な甲殻類(十脚類)	213
12-4 外来生物法などに係る甲殻類(十脚類)	213
13. 岐阜市自然環境基礎調査	214
13-1 調査体制	214
13-2 調査員および協力者・協力団	215
13-3 調査概要	216
13-4 文献・資料	239

付図-1 基準地域メッシュの1/2地域メッシュ (1:40,000)

付図-2 現存植生図 (1:40,000)

付録 CD-ROM

- ・生物データベース
- ・植物群落組成表
- ・報告書PDFファイル
- ・付図PDFファイル

本書に記載している生物の分布図は、確認位置情報のあるデータにより、基準地域メッシュ(3次メッシュ、1辺が約1km)あるいは、同メッシュの1/2地域メッシュ(基準地域メッシュを縦横2等分したもので、1辺が約500m)を使用して表示しています。

1/2地域メッシュのメッシュコードについては、付図-1を参照してください。なお、基準地域メッシュコードには、1/2地域メッシュコードの下1桁を除いた数値になります。

例えば三次メッシュコード"53361611"に含まれる1/2地域メッシュコードは"533616111" "533616112" "533616113" "533616114"になります。

1. 岐阜市の自然概要

岐阜市は北緯 35 度 21 分～32 分、東経 136 度 40 分～53 分の範囲に位置し、緯度からみると東京都心部とほぼ同緯度にある。平成 18 年に羽島郡柳津町を編入し、市域は 202.89km² となっている。市域の最高峰は百々ヶ峰(418m)である。

市域は、美濃山地と濃尾平野の境に位置しており、市域の東部から北部には美濃山地の南縁部にあたる丘陵および低山が分布している。西から御望山(225m)、城ヶ峰(288m)、百々ヶ峰(418m)、大蔵山(194m)が連なり、長良川で一旦途切れた後、権現山(317m)へと続いている。百々ヶ峰の南には、長良川を挟んで、金華山(329m)、舟伏山(262m)が連なっている。南部から西部は濃尾平野の北縁部にあたる平野(平野、段丘、扇状地)が広がっている。

市域の中央を長良川が北東から南西方向に流下し、その支川である伊自良川、鳥羽川、板屋川は市北西部を南方向に流下し、長良川に合流している。同じく支川である境川、荒田川は市南部を南西に流下し、同様に長良川に合流している。(図 1-1 参照)

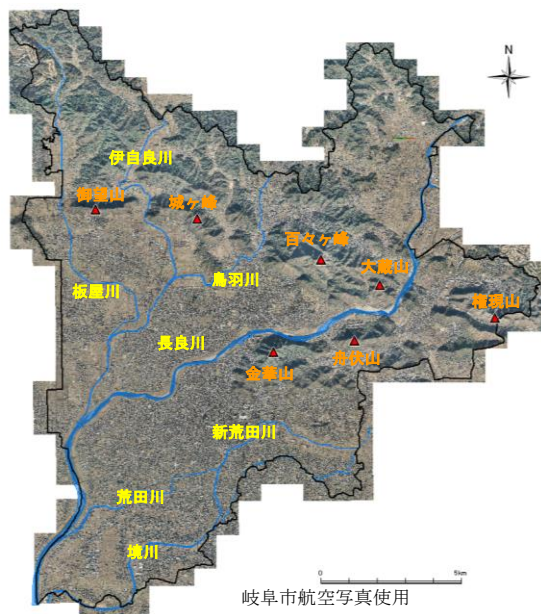
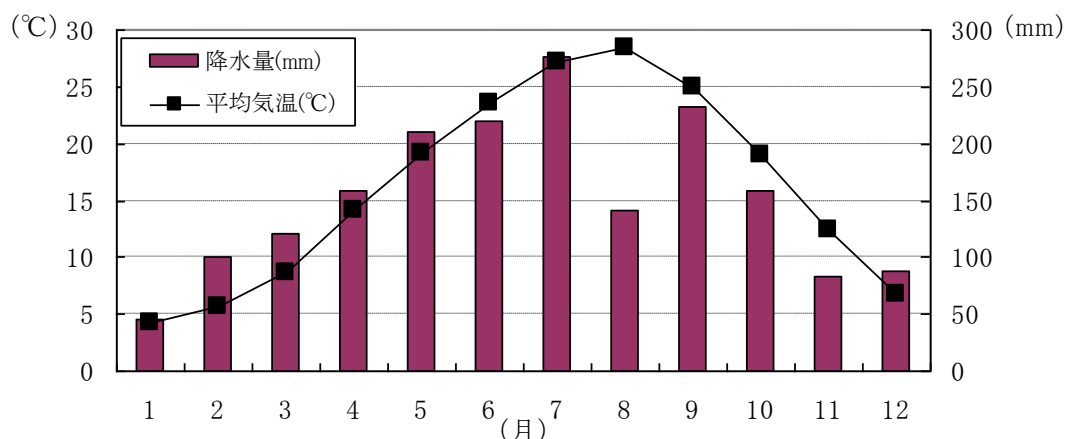


図 1-1 主要な山地および河川

低地は水田として利用されてきており、灌漑用のため池が点在している。近年は農地の宅地化が進む一方で、耕作放棄地も増加している。

過去 10 年の気象観測結果を見ると、気温は 1 月が最も低く約 4℃、8 月が最も高く約 28℃、降水量は冬季が少なく夏季に多くなるが、8 月は前後の月に比べて少なくなっている。(図 1-2 参照) また、風は年間を通じて 2.5m/s 前後で、夏季は南西、冬季は北西の風が多くなる。



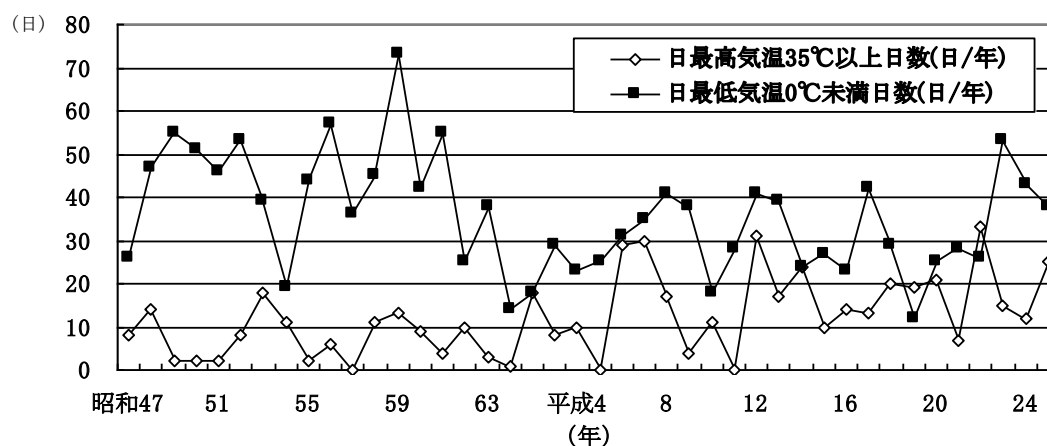
注) 平成 16 年～平成 25 年の平均値 (気象庁データ (岐阜) より算出)

図 1-2 岐阜市の月別平均気温と降水量

次に、岐阜市における過去 40 年間(昭和 47 年から平成 25 年まで)の気候の変化を見ると、日最高気温が 35℃以上の日数および日最低気温が 0℃未満の日数の動向では、平成元年付近を境に、日最高気温が 35℃以上の日数が増加している。その一方で、日最低気温が 0℃未満の日数が減少している。(図 1-3 参照)

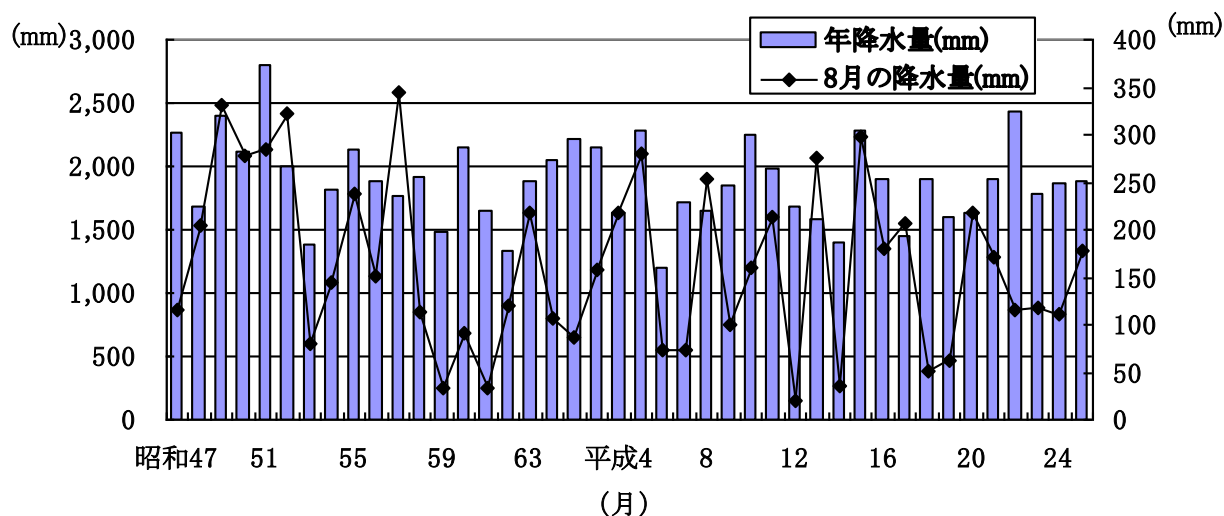
また、降水量について見ると、年降水量は変動が多く、一定の傾向を確認することは難しいものの、8月の降水量に絞ってその推移を見ると、昭和60年頃から300mmを超すことが少なくなっていることが分かる。(図1-4参照)

近年、南方に生息する生物が確認される例が報告されるように、こうした気候の変化が、岐阜市に生息・生育している生物に対しても、何らかの影響を及ぼしている可能性が考えられる。



注) 気象庁データ(岐阜)より算出した。

図 1-3 岐阜市の月別平均気温と降水量



注) 気象庁データ(岐阜)より。

図 1-4 岐阜市の8月の降水量